

初春の令月にして、氣淑(よ)く風和らぎ、

梅は鏡前の粉を披(ひら)き、蘭は佩後(はいご)の香を薫らす

(現代語訳) あたかも、初春の良き月、氣は麗らかにして風は穏やかだ。

梅は鏡台の前のおしろいのような色に花開き、蘭は腰につける匂い袋のように香っている。

★万葉集★ 稲城周辺では、若葉台から続く「よこやまの道」(一本杉公園)に『赤駒(あかごま)を、山野(やま)のにはがし、捕りかにて、多摩(たま)の横山(よこやま)、徒歩(かし)ゆか遣(や)らむ』の防人歌碑がある。

【「令和」について、各方面からの批評】

▼林英臣 政経塾塾長(大和言葉学者)：新元号の「令和」は、意味が良くないという意見があります。「令」は命令、「和」は和順。そこには「命令に従え」という、上から抑え付ける意図があるという批判です。本当にそうなら大変であり、誰も使いたくなくなります。

字源から見ますと、「令」は「亼(しゅう)」と「卩(せつ)」の合字です。「亼」は「合」で人を集めること、「卩」は人が跪(ひざまづ)いて従っている様子を表します(「ひざまづく」は「膝まで付く」の略)。

また、「卩」には割符(わりふ、約束を交わした証拠のしるし)の意味もあります。割符は辞令書であり、長官からの命(めい)を奉ずるのが「令」です(「大字典」)。従って、令に「人を集め、命令に従わせる」という意味があるのは確かなことです。

しかし、それを直ちに抑圧的で悪い事と捉えるのは、あまりにも不粋な曲解でしょう。尊くて大切なものに対して礼儀を正している姿勢は、とても美的で感動します。礼に始まり礼で終わる武道の美意識、皆で整然と踊るダンスや舞い、衛兵交代の格好良さなどを思い起こしてください。令は人として美しい姿そのものなのです。それで、よき月を「令月」、美しい人を「令人」、立派な徳を「令徳」、優れた決まりを「令典」というのです。

「命令」にしても、その内容が優れており、それを立派な人が出すから命令となるのであって、そもそも上から抑え付けるような指示は「令」でも何でもありません。あるいは「令」の持つ割符という意味から、約束を守ることの「人としての美しさ」を表しているとも考えられます。言うが成るという誠(まこと)の美しさです。だから、「令和」に対する批判は全くの的外れとなります。

「令和」は「美しくて和やか」という意味を持った素晴らしい元号です。自信を持って5月1日から新元号を用いましょう。また日本語(大和言葉)の音義からも、「れい」には「いきいきと伸びていく活動」、「わ」には円満・充足という意味があります。音の響きも素敵です。

新元号で、これから国民心理が変わります。「令和」によって創造的で美しく、清新で豊かな新日本の創成に必ず向かうことになるでしょう！

▼阿辻哲次京大名誉教授：万葉集によると、『令月』とあるのは『素晴らしい月』という意味。まさに天皇の代替わりに伴う季節感と、平和を謳歌しているというイメージを受ける。「令」には、「令嬢」「令息」といった言葉に使われるように「よい」という意味がある。

▼大木康東大教授(中国文学者)：中国では『令月』に『吉日』と付けることが多い。「令」は「吉」と通じ、めでたい意味がある。引用したのが春の梅の様子を歌ったものだったことについても和やかな印象を受ける元号だ。

▼金田一秀穂杏林大教授(日本言語学者)：冬から春にかけての気持ちがいい、新しい1年が始まっていく期待感、新鮮さというんですかね。引き締まるような神様の言葉が含まれる季節、ということだと思います。令月というのはおめでたい月、全ての物事を行うのによい月だと。始まりのとってもいい月なんだよと。